

年報第7号発刊によせて

茨城大学大学院教育学研究科 教育実践高度化専攻長
勝二 博亮

本学の教職大学院は、2016年度（平成28年度）に学校運営コース、教育方法開発コース、児童生徒支援コースの3コース（定員15名）を開設することで始まりました。2021年度（令和3年度）には改組を行い、あらたに教科領域コース、特別支援科学コース、養護科学コースが加わり、定員も43名と大幅に増えました。この改組に伴い、従来の修士課程から専門職学位課程へと全面的に移行したことになります。そして、今年度は改組してはじめての修了生を送り出すことになります。

毎年発刊しております年報におきましても、本号より内容を大幅に変更しております。これまでの年報は、論文（教員）、実践報告（1年次生）、成果報告（2年次生）の構成からなっておりました。しかし、学生数も43名と増えたことから、教員による論文および1年次生による実践報告の掲載をとりやめ、学生の2年間の取り組みをまとめた「実践研究報告書」の抄録原稿を掲載することといたしました。さらに、学生の研究成果を広く周知するため、「実践研究報告書」の抄録原稿はWeb上でも公開する予定となっております。なお、学校運営コース、教育方法開発コース、児童生徒支援コースの3コースにおきましては、これまでの取り組みを引き継ぐかたちで、新たな雑誌である「学校教育実践研究論集」を立ち上げ、特に2年次生においては、「実践研究報告書」の内容を採録した「成果報告」を掲載する予定となっております。

それぞれの学生諸氏が取り組んだ実践研究の成果は、まだ不十分な点もみられるかもしれませんが、2年間の懸命な取り組みの中で学生諸氏が残したものでもあります。これらの研究成果につきまして、ぜひご一読いただき、ご助言やご指導を賜りますようお願い申し上げます。なお、研究の遂行に際しては、多くの関係諸機関の方々からご協力をいただきました。さらに、茨城県教育委員会、県内各市町村教育委員会、茨城県学校長会、茨城県教育研究会、そしてさまざまな実習科目にご協力いただいております教育関係機関ならびに社会教育施設等の皆さまには多大なるご支援をいただきました。また、教員不足が問題となっている中で、現職教員を派遣いただいている学校の皆さまにもご協力をいただいております。皆さま方には、心より感謝いたしますとともに、厚く御礼を申し上げます。

本学の教職大学院は、「誰も置き去りにしない、すべての子どもの力を伸ばす教員の育成」を目指しております。教職大学院での成果は、すぐには形となって表れないかもしれませんが、地域にある教育機関との協力と連携の下で、子どもに寄り添い、子どもの力を最大限に引き出せるような教員の育成を目指していきたいと思っております。ひきつづき、今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。